

## 学長のコラム

### 天草五橋供用 50 周年

今年 9 月に、天草五橋が開通し供用してから 50 周年を迎えた。確か 30 年ほど前に、供用 20 周年を祝ってシンポジウムを開催した記憶があるが、月日の経つのは早いものである。天草と本土との地域格差をなくし、町を発展させるために橋を架ける必要性を説いたのは開通当時の大矢野町長森慈秀氏で、1936 年 12 月の熊本県議会でその構想が披露された。それから 30 年後の 1966 年 9 月、20 万島民の悲願が実って、本土側の三角と天草上島の松島町間が五つの橋で結ばれる道路が完成し、天草パールラインと命名された。

この道路は、32 億円の巨費と 4 年半の歳月をかけて完成した。建設当初、日本道路公団が管理する有料道路として供用し、30 年間で建設費用を償還する計画であったが、予想を超える観光客の来島と産業の飛躍的發展の結果、9 年間という短期間で償還を終えて、1975 年 8 月に無料道路となった。このことは、このプロジェクトが、いかに優れた先見であったかを実証した。

ある形式の橋で一跨ぎする距離（支間という）の大きさが、その国の橋梁技術の高さのバロメータとなるが、完成当時、1 号橋（天門橋）の支間 300m は、世界一、2 号橋（大矢野橋）の 156m は東洋一、3 号橋（中の橋）の 160m は東洋一（世界 2 位）、4 号橋（前島橋）の 146m は、世界 4 位であったので、当時すでに日本の橋梁技術は世界的水準であったことを示している。

島々を橋で結んで、観光や産業を振興するという発想と培われた種々の新しい技術は、その後の本州四国連絡橋をはじめとする世界に誇る海上連絡橋建設の先駆けとなるものであった。天草五橋 50 周年を迎えて、社会基盤整備の偉力と、技術者のチャレンジ精神を後世の若い技術者に伝えたいものである。また、50 年というのは、橋の法定寿命でもあるので、熊本県は、早速、新しい天門橋の建設を現天門橋の横に、着手しており、完成が待たれる。



### 11 月・12 月の主な行事予定

11 月 1 日 (火)	医学検査学科 臨地実習認定式
5 日 (土)	リハ社会人入試、助産別科推薦入試、大学院推薦選抜、 社会人選抜 (I 期) 入試 フードパルフェスタ 2016 (～6 日)、西里つ子ひびら祭り
12 日 (土)	指定校推薦・一般推薦入試
13 日 (日)	井芹川大清掃
16 日 (水)	第 2 回相互授業参観 (ピアレビュー) ※18 日 (金) 第 3 回、29 日 (火) 第 4 回、12 月 22 日 (木) 第 5 回も実施
17 日 (木)	熊本県私立大学協会研修会 (会場：ホテルニューオータニ熊本)
20 日 (日)	第 8 回市民健康生活フォーラム (MUSASHI 会)
21 日 (月)	インフルエンザワクチン接種 ※29 日 (火) も実施
24 日 (木)	定期健康診断
26 日 (土)	看護学科臨地実習合同研修会
28 日 (月)	学校法人銀杏学園理事会・評議員会 第 2 回新任教員によるお披露目講演会
12 月 1 日 (木)	防災訓練
3 日 (土)	助産別科一般入試
4 日 (日)	助産別科開設 10 周年記念事業
7 日 (水)	新アリーナ建設・起工式
8 日 (木)	杏友会親睦会 (会場：ホテル日航熊本)
11 日 (日)	チャレンジ熊保大・一般入試対策講座
15 日 (木)	日中保健・医療・福祉フォーラム
19 日 (月)	感謝の会
22 日 (木)	授業終了
26 日 (月)	仕事納め式

### フードパルフェスタ 2016

11 月 5 日 (土)～6 日 (日) 株式会社フードパル熊本主催「フードパルフェスタ 2016」に参加しました。内容はお馴染みの健康チェックで、医学検査学科が体成分測定、骨密度測定、血管年齢測定を、看護学科が血圧測定を行いました。このフードパルフェスタは本学の地域連携活動の中で最も来場数の多い



イベントであり、今年度も 1 日目に 209 名、2 日目には 224 名の方が本学のコーナーを訪れ、測定を受けられました。  
(文責：地域連携委員会事務局)



\*

※12 月 27 日～1 月 3 日まで年末・年始休暇です。

## 西里っ子ひびら祭

11月5日(土)西里小学校PTA主催「西里っ子ひびら祭」に参加しました。リハビリテーション学科生活機能療法学専攻が革のストラップ作りを西里小学校の児童対象に行いました。220名以上の子どもたちが本学のコーナーを訪れ、ストラップ作りを楽しんでいました。(文責:地域連携委員会事務局)



## 井芹川流域清掃

11月13日(日)に今年も井芹川流域一斉大清掃が行われました。西里地区まちづくり委員会など地域の方々と一緒に、本学も学生26名、教職員19名、子ども4名の総勢49名で参加いたしました。(8時~9時)

参加者は西里駅周辺と大学周辺の二手に分かれ、草取りはもちろんのこと、橋のたもとなどにパンジーの花を植えたりして、清掃や美化活動を地域の方々と共に頑張りました。

朝7時50分と早い時間に集合しご参加いただいた方々に心より感謝します。来年もよろしくお祈りします。(文責:総務課)



## 私の秘話ヒストリー

今回は教学支援センターの島本光裕さんに投稿していただきました。

平成21年、大学生時代お世話になった寮が閉寮しました。寮での生活は、今でもいい思い出として記憶に残っています。

当時、携帯電話のような便利なものはなく、通信には寮の共同電話しかありません。電話番号は交代制で、ちょっとしたルールがありました。通常は「電話です。」と呼び出すところ、女性からの場合、「お電話です。」と「お」をつけるというものです。私への「お電話」は悲しいことにほぼ母親でした。

そんな寮の一大イベントが毎年1回開催される寮祭でした。我々の時代での寮祭は、1年生が真昼間に「赤」「青」「黄」のフンドシー丁で、800kgある樽みこしを担いで繁華街を練り歩くというものでした。沿道からは水をかけてもらいながら近くにあった大学の女子寮を目指し、最後に女子寮の学生からも水をかけてもらうというのがゴールとなっていました。寮は3棟あり、フンドシの色も各棟単位で毎年決められていました。赤が一番人気、黄は色落ちて見栄えが悪くなるため、できれば避けたい色でした。私は青でしたが、当時の写真が残っていないのは幸いです。

そんな寮もなくなってしまったのですが、寮の跡地を購入したのは、樽みこしのゴールになっていた大学だったというのは、何かの縁があったのでしょうか。(文責:島本さん)

## 飛鳴祭

本学看護学科4年生2名(村田侑亮さん・中尾勇介さん)が、神奈川県平塚市にある東海大学医療技術短期大学の学園祭「飛鳴祭」に講師として呼ばれました。東海大学は阿蘇キャンパスが熊本地震において大きな被害に見舞われています。飛鳴祭の実行委員会は看護学生として何が出来るのかを考えたいということで、本学の学生を呼んでくれました。2人は「熊本地震から学ぶ人との繋がり」をテーマに短大看護学生や教職員、高校生とその保護者ら約200名を前に堂々と話しをしました。自分の経験だけでなく事前に現地にも赴き、他の学生の状況なども調べて振り返り、しっかりとまとめてあり大変好評だったそうです。その後の質疑応答や学生間の交流などもあり、日本全国に看護をもとにした「人とのつながり」ができそうです。



(文責:竹熊看護学科長)

## 作業療法クラブ

東日本大震災以降、作業療法クラブでは学園祭で模擬店をだし、被災地の方が作ったミサンガを売ったり、学生手作りのストラップ人形を売って売上金を毎年寄付してきました。今年は部員の有志10名(生活機能療法学専攻3年)で、キャンドルを作って売り“被災地子どもキャンプわいわい”に寄付をし、感謝状をいただきました。“わいわい”はいつも実習でお世話になっている特別養護老人ホームくわのみ荘の法人が行っている活動で、学生もボランティアで関わっています。購入してくださった皆様ありがとうございました。

(文責:野尻講師)

↓ 感謝状



## 第23回弾丸CUP

野球部が8月21日(日)~9月25日(日)に開催された軟式野球トーナメント大会「第23回弾丸CUP」で準優勝しました!今年はユニホームを新調し、いつも以上に気が入った試合でした。(文責:学務課)

